

(6) ジャスコ能代店

現在、中心市街地に住む中高年をメインターゲットとしたリニューアルを計画しており、その一環として、昨年12月には新たなテナントも入居している。柳町商店街と一体となった商業エリアを形成し、連携しながら商業活動を行っている状況にある。

今後、まちなかの大型店としての魅力を高め、郊外の店舗との違いを強調した営業を進めることとして、柳町のジャスコ能代店を継続する方針が示されている。

(7) 農業への影響

イオンの地場産農産物コーナーでは、商圈が広がることにより市外の買い物客が特産野菜を買い求めたり、良い商品であればグループ各店舗で販売することもできる。

流通関係では、JAの場合、集荷した野菜の大部分は県外に流通し、能代市内で流通する量は少なく、影響は少ないと予測される。

また、青果地方卸売市場の場合は地場産農産物及び他県産や輸入農産物を地元の小売店、量販店等に販売していることから、影響があると予測される。

既存の直売所は商品の差別化等により、販売額を増やすことも可能であるが、既存の量販店の地場産コーナーには影響があると予測される。

(8) 新たなインフラ整備への影響

公共施設（道路、公園、排水施設、給水施設等）の整備については、都市計画法に基づく開発許可制度の中で取り扱われる。

この制度は、無秩序な市街化を防止し、市街地として最低限必要な公共施設は開発者自らが開発区域の規模に応じて整備することを基本としている。このため、市が開発区域内の公共施設整備に費用を負担することはない。

当該区域工事完了後の公共施設は、原則として市に帰属することから、維持管理費用が発生する。

(9) 周辺生活環境への影響（騒音・光害、交通渋滞）

①騒音・光害

騒音等については、法律により事業者が騒音に関する影響を予測し、評価（環境アセスメント）することとなっているので、その段階でチェックし必要であれば対策を求めするなど対応する。（「大規模小売店舗立地法」及び「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針」）

その他環境への影響については、事業計画が具体化された段階で要素毎（水、光など）に事前チェックし対応することとなるが、問題となることは今のところ考えられない。

小友沼・渡り鳥への影響については、小友沼と計画地は丘陵地で遮られており、影響はないと考えられる。また、餌場は能代地域一帯から八郎潟の水田であり、場合によっては八峰町や北秋田市の水田も餌場となっていることから、影響はないと考えている。

②交通渋滞

東西に国道7号、北に広域農道、南に秋田自動車道へのアクセス道路があり、交通利便性のよい場所となっている。

現時点では、イオン新能代SCの計画内容が確定していないとのことであり、既存道路である国道7号に接する駐車場への出入り口等については、開発行為における道路管理者との事前協議の中で通行の安全等について十分話し合われることになる。仮に国道7号沿線と秋田自動車道へのアクセス道路に駐車場出入り口が設置されたとすると、富根・鶴形方面から国道7号を西進する車と、広域農道から秋田自動車道のアクセス道路へと南進する車は、左折入場を行うこととなるため、問題は少ないと思われる。

一方、秋田自動車道の利用者と能代市内から国道7号を東進してくる車については、右折入場を行うこととなり、国道7号及び高速道路へのアクセス道路において、交通渋滞の可能性があると予測される。